



2016年度第2四半期決算説明会

2016年11月11日

東武鉄道株式会社

目次

- ・Ⅰ.2016年度 第2四半期実績 P02

- ・Ⅱ.「東武グループ中期経営計画」の推進 P14

- ・Ⅲ. 2016年度 通期見通し P27

I. 2016年度 第2四半期実績

連結子会社及び持分法適用会社の異動状況

2016年9月末現在

セグメント \ 項目	連結子会社	持分法適用会社	計	2016年3月	増減
運輸	30	2	32	32	
レジャー	21	2	23	22	1社増
不動産	4	0	4	4	
流通	15	3	18	18	
その他	18	0	18	17	1社増
計	88	7	95	93	2社増

(参考) 決算期統一(3月)への取り組み状況(決算期変更による影響額)

セグメント \ 項目	社数	15年度	
		影響額(単位:億円)	
		営業収益	営業利益
運輸	0	0	0
レジャー	0	0	0
不動産	0	0	0
流通	0	0	0
その他	1	2	0
計	1	2	0
消去	-	0	0
合計	1	2	0

増加内訳

レジャーセグメント

金谷ホテル(株)

(16年9月株式取得による増加)

その他セグメント

東武栃木生コン(株)

(16年4月東武建設(株)から分割による増加)

I. 2016年度 第2四半期実績

1 収益力(連結)

(単位:億円)

		16年度 第2四半期	15年度 第2四半期	増 減	参 考	
		(実績)	(実績)		(計 画)	(対計画)
	営業収益	2,775	2,858	▲83	2,840	▲65
	営業費用	2,455	2,543	▲88	2,536	▲81
	営業利益	320	315	5	304	16
	経常利益	293	264	29	267	26
	親会社株主に帰属 する四半期純利益	173	134	39	155	18

※計画値は16年5月13日発表のものを使用している。(P3~P13)

I. 2016年度 第2四半期実績

2 損益項目の増減要因 (15年度第2四半期→16年度第2四半期)

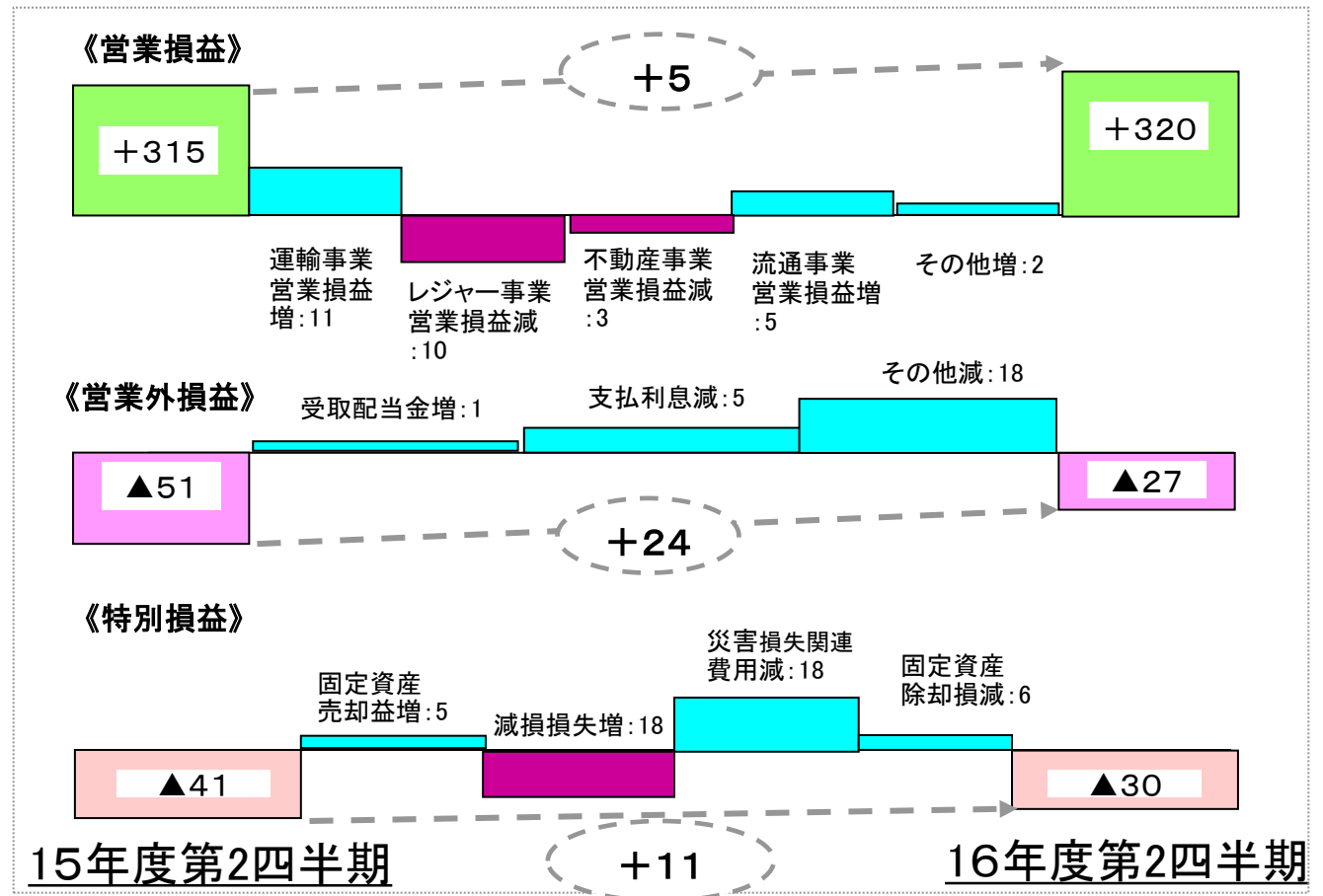
(単位: 億円)

16年度

親会社株主に帰属する
四半期純利益 173億円
(前年同期比: +39億円)

営業損益	: +5
営業外損益	: +24
特別損益	: +11
税金等調整前 四半期純利益	: +40
親会社株主に帰 属する四半期純 利益	: +39

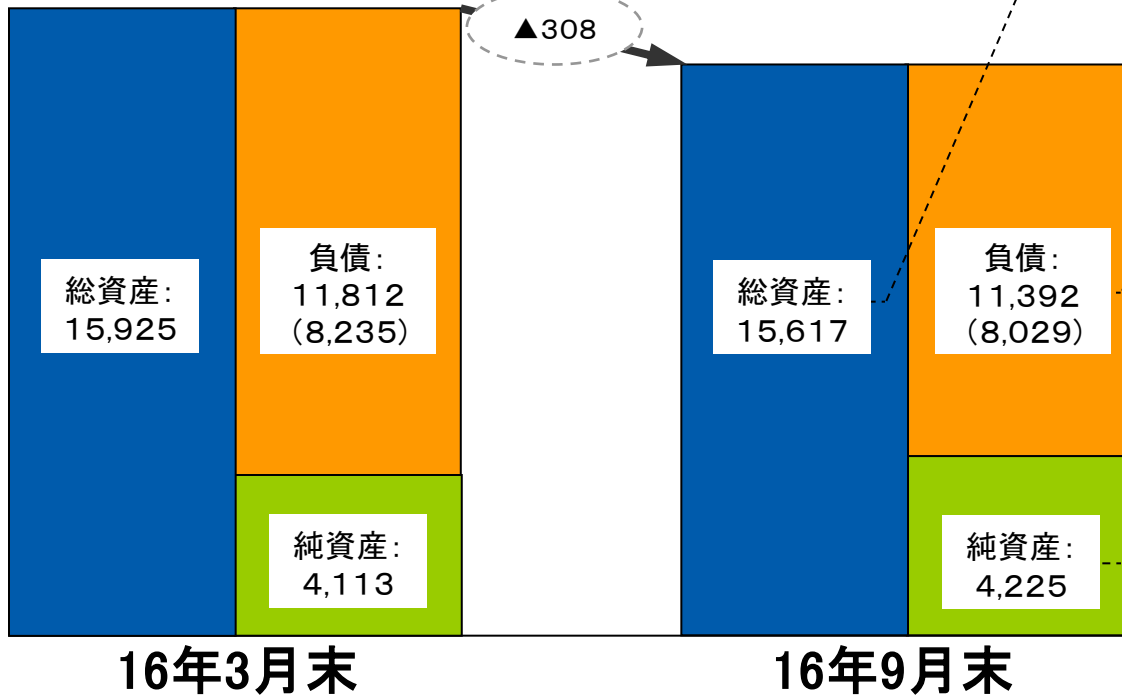
売上高営業利益率
11.5%



I. 2016年度 第2四半期実績

3 総資産の動き (16年3月末→16年9月末)

(単位: 億円)



総資産(16/3末比)	: ▲308
有形固定資産	: ▲79
投資有価証券	: ▲49
その他	: ▲180

負債(16/3末比)	: ▲420
有利子負債	: ▲206
(借入金、社債、鉄道運輸機構未払金)	
その他	: ▲214

純資産(16/3末比)	: 112
利益剰余金	: 124
その他有価証券評価差額金	: ▲33
その他	: 21

※ カッコ内
負債: 有利子負債残高

自己資本比率
25.7%

I. 2016年度 第2四半期実績

4 キャッシュフロー(連結)

(単位:億円)

	16年度 第2四半期 (実績)	15年度 第2四半期 (実績)	増 減	15年度 通期実績
EBITDA	579	573	6	1,173
(営業利益)	(320)	(315)	(5)	(644)
(減価償却費)	(259)	(258)	(1)	(529)
有利子負債残高	8,029	8,267	▲238	8,235
純工事額	218	383	▲165	693

I. 2016年度 第2四半期実績

5 セグメント別営業利益(連結)

(単位:億円)

	16年度 第2四半期	15年度 第2四半期	増 減	参 考	
	(実 績)	(実 績)		(計 画)	(対計画)
運 輸	205	194	11	194	11
レジャー	23	33	▲10	27	▲4
不動産	69	72	▲3	63	6
流 通	4	▲1	5	1	3
その他	21	19	2	21	0

(各セグメント合計値と連結営業利益との差額:セグメント間取引等に関わる消去額)

I. 2016年度 第2四半期実績

《運輸事業》

(単位: 億円)

	16年度 第2四半期 (実績)	15年度 第2四半期 (実績)	対前年 増減	対計画 増減
営業収益	1,090	1,093	▲3	▲8
鉄道	815	813	2	0
その他	275	280	▲5	▲8
営業費用	885	899	▲14	▲19
鉄道	634	643	注1 ▲9	注2 ▲10
その他	251	256	▲5	▲9
営業利益	205	194	11	11
鉄道	181	170	11	10
その他	24	24	0	1

主な増減要因

東武鉄道 鉄道業の旅客人員・旅客収入 (単位: 百万人、億円、%)

		16年度	15年度	対前年		16年度	対計画	
		2Q実績	2Q実績	増減	%	2Q計画	増減	%
旅客 人員	定期外	158	158	0	0.1	158	0	0.1
	定期	304	303	1	0.5	303	1	0.3
	(特急等※1)	4	3	1	29.2	4	0	▲3.4
	計	462	461	1	0.3	461	1	0.3
旅客 収入	定期外	398	396	2	0.5	397	1	0.2
	定期	335	335	0	0.2	335	▲0	0.1
	(特急等※2)	30	28	2	8.2	31	▲1	▲3.5
	計	733	731	2	0.4	732	1	0.1

※1 旅客人員の特急等は、定期外、定期人員の内数である。また、16年度2Q実績、16年度2Q計画には、TJライナーの人員が含まれている。

※2 旅客収入の特急等は、定期外旅客収入の内数である。また、16年度2Q実績、16年度2Q計画には、TJライナーの着席整理料金が含まれている。

注1 東武鉄道 鉄道業

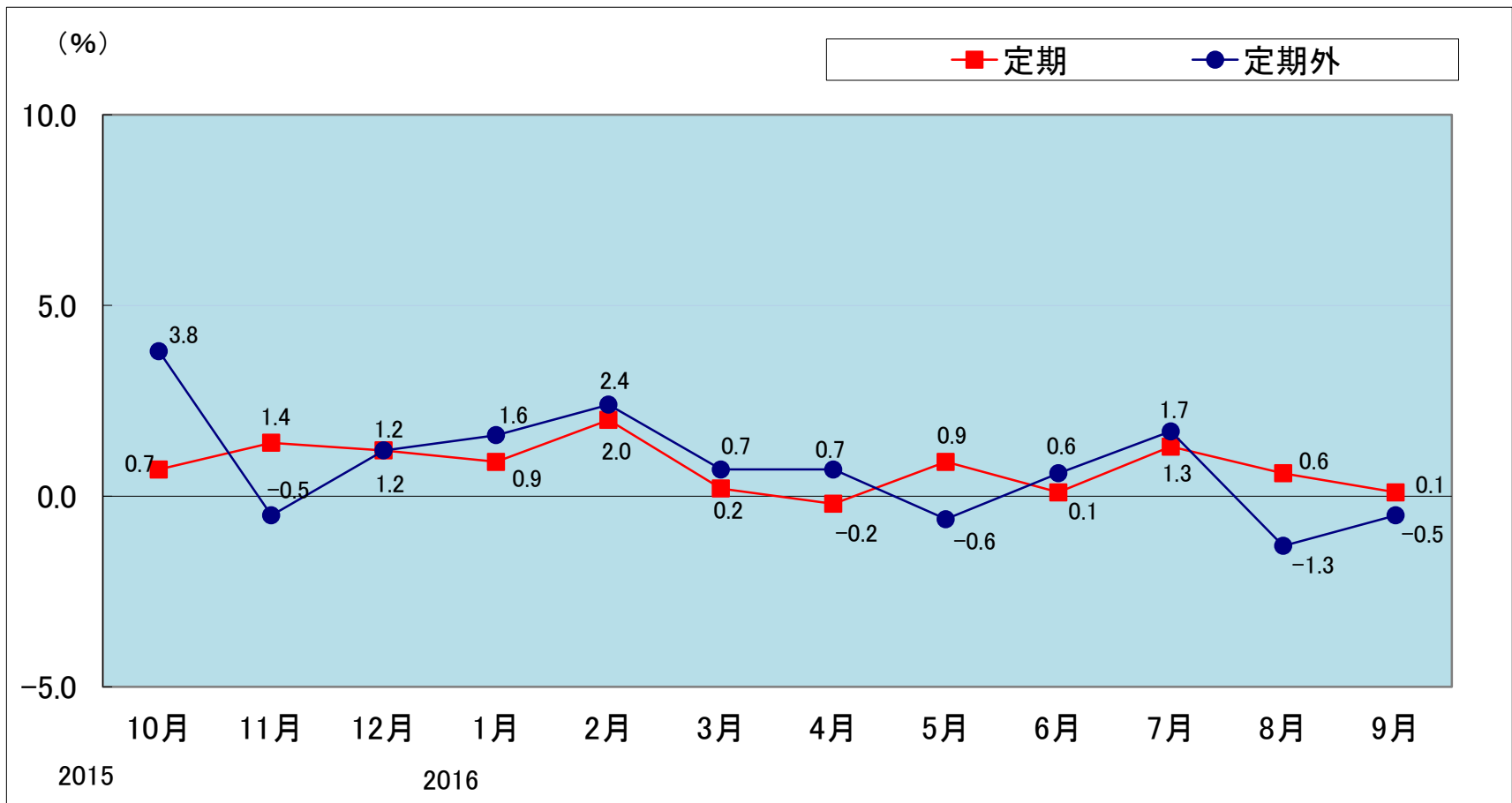
人件費	▲22
物件費	+15
動力費	▲7
諸税	+3
減価償却費	+1

注2 東武鉄道 鉄道業

物件費	▲11
動力費	▲1
減価償却費	+2

I. 2016年度 第2四半期実績

輸送人員(定期・定期外)の増減率の推移(対前年比較)



I. 2016年度 第2四半期実績

《レジャー事業》

(単位:億円)

	16年度 第2四半期 (実績)	15年度 第2四半期 (実績)	対前年 増減	対計画 増減
営業収益	369	391	▲22	▲24
ホテル	79	85	▲6	▲4
スカイツリー	70	76	▲6	▲4
その他	220	230	▲10	▲16
営業費用	346	358	▲12	▲20
ホテル	78	82	▲4	▲5
スカイツリー	44	45	▲1	▲3
その他	224	231	▲7	▲12
営業利益	23	33	▲10	▲4
ホテル	1	3	▲2	1
スカイツリー	26	31	▲5	▲1
その他	▲4	▲1	▲3	▲4

主な増減要因

主なホテルの状況(実績)

	客室稼働率(%)			婚礼組数(組)		
	16年度2Q	15年度2Q	増減	16年度2Q	15年度2Q	増減
銀座	89.7	93.0	▲3.3	69	62	7
錦糸町	84.4	87.0	▲2.6	56	72	▲16
成田	82.0	85.1	▲3.1	-	-	-

※東京スカイツリー入場者数
 16年度2Q実績 約220万人
 15年度2Q実績 約241万人

I. 2016年度 第2四半期実績

《不動産事業》

(単位:億円)

	16年度 第2四半期 (実績)	15年度 第2四半期 (実績)	対前年 増減	対計画 増減
営業収益	244	287	▲43	1
賃貸	167	167	0	▲3
タウン	62	65	▲3	▲1
分譲	15	55	▲40	5
営業費用	175	215	▲40	▲5
賃貸	109	107	2	▲5
タウン	51	54	▲3	▲2
分譲	15	54	▲39	2
営業利益	69	72	▲3	6
賃貸	58	60	▲2	2
タウン	11	11	0	1
分譲	0	1	▲1	3

主な増減要因

分譲販売戸数		単位:戸				
		16年度 2Q実績	15年度 2Q実績	対前年 増減	16年度 2Q計画	対計画 増減
販売戸数	戸建住宅	16	15	1	17	▲1
	マンション	3	143	▲140	3	0
持分換算後 販売戸数	戸建住宅	16	15	1	17	▲1
	マンション	3	117	▲114	3	0

※スカイツリータウン来場者数
 16年度2Q実績 約1,571万人
 15年度2Q実績 約1,723万人

I. 2016年度 第2四半期実績

《流通事業》

(単位:億円)

	16年度 第2四半期 (実績)	15年度 第2四半期 (実績)	対前年 増減	対計画 増減
営業収益	950	977	▲27	▲30
百貨店	841	866	注1 ▲25	注2 ▲28
その他	109	111	▲2	▲2
営業費用	946	978	▲32	▲33
百貨店	840	871	▲31	▲31
その他	106	107	▲1	▲2
営業利益	4	▲1	5	3
百貨店	1	▲5	6	3
その他	3	4	▲1	0

主な増減要因	
注1	
池袋店	▲11
船橋店	▲7
宇都宮店	▲7
注2	
池袋店	▲13
船橋店	▲8
宇都宮店	▲6
大田原店	▲1

I. 2016年度 第2四半期実績

《その他事業》

(単位:億円)

	16年度 第2四半期 (実績)	15年度 第2四半期 (実績)	対前年 増減	対計画 増減	主な増減要因
営業収益	416	394	22	▲17	
営業費用	395	375	20	▲17	
営業利益	21	19	2	0	

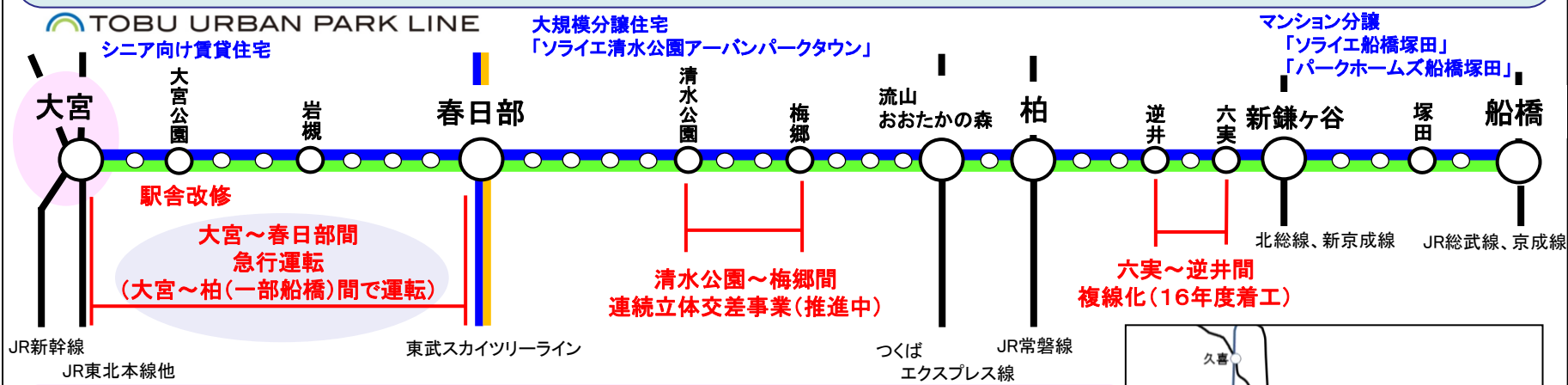
Ⅱ.「東武グループ中期経営計画」の推進



基本戦略1 鉄道事業の利便性・安全性の向上

東武アーバンパークラインの利便性・快適性の向上

東武アーバンパークラインの高いポテンシャルを最大限活用し、エリア内の定住化促進と交流人口を創出



■大宮駅の機能高度化

・「大宮駅グランドセントラルステーション化構想」の策定等に向けた大宮駅グランドセントラルステーション推進会議に参加
 ⇒メンバー 学識経験者、鉄道事業者、地元まちづくり団体、国、県、市等

■大宮～春日部間急行運転開始(16年3月26日ダイヤ改正)

・大宮駅への定期外乗車人員の増加
 岩槻、春日部⇒大宮駅 計+約5%
 北千住、西新井、草加、新越谷、越谷、せんげん台⇒大宮駅 計+約10%



Ⅱ.「東武グループ中期経営計画」の推進



基本戦略1 鉄道事業の利便性・安全性の向上

質の高い輸送サービスの提供

東上線ダイヤ改正(16年3月26日改正)の実施結果

■上りTJライナー新設・下りTJライナー増発

・16年度第2四半期 TJライナー利用人員対前年増減率 +約40%

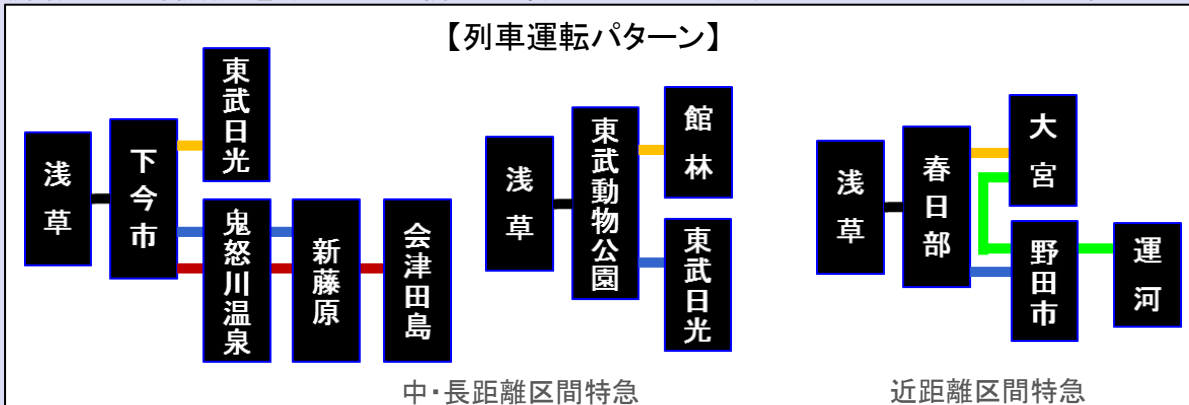
■副都心線直通列車の急行(Fライナー)運転

・Fライナー停車駅⇒和光市駅経由地下鉄方面への定期外乗車人員 +約10%

新型特急車両「500系」の導入(17年春運行開始予定)

■新型特急車両「500系」【車両愛称名「Revaty(リバティ)」】

・併結・分割機能を活用した新たな線区への運行、シームレスな運行の実現



Ⅱ.「東武グループ中期経営計画」の推進



基本戦略1 鉄道事業の利便性・安全性の向上

さらなる安全性の向上

分断された市街地を、連続立体交差事業により一体化

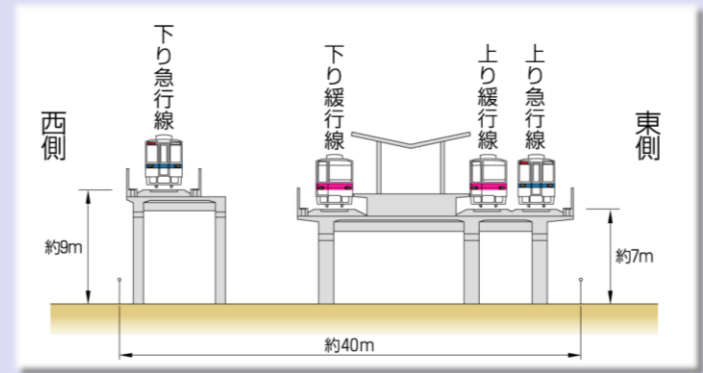
■竹ノ塚駅付近

・16年5月29日初列車より下り急行線高架化



高架化された下り急行線

・20年度事業完成予定



竹ノ塚駅部完成イメージ

■とうきょうスカイツリー駅付近

- ・16年3月 都市計画決定
- ・墨田区が進める事業認可手続きに協力

■清水公園～梅郷間

- ・高架化工事を推進中

■春日部駅付近

- ・事業化を目指し、埼玉県・春日部市と協議中

■大山駅付近

- ・事業化を目指し、東京都と協議中

Ⅱ.「東武グループ中期経営計画」の推進



基本戦略2 東京スカイツリータウン®の継続的な収益力強化

来場者の維持拡大

話題性の高い特別企画・イベント開催による賑わいの創出

●天望回廊への回遊、雨天時・早朝夜間のさらなる需要喚起に向けた取り組みを実施

■『SKYTREE ROUND THEATER®』

- ・夜間の天望デッキ フロア350の窓ガラスに、臨場感溢れる音響とともに迫力ある映像を投影
悪天候時でも天望デッキを楽しめる演出により、集客力の強化を推進

【オープン日】16年3月18日 【投影ガラス面積】 横幅 約110m × 高さ 約2m

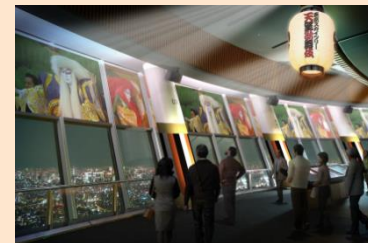


天望歌舞伎ラッピングトレイン
(イメージ)

新プログラム『東京スカイツリー®天望歌舞伎』(16年10月～)

- ・平成中村座とコラボレーションし、外国のお客さまにもなじみ深いロックの名曲に合わせて中村勘九郎氏が歌舞伎を披露する新プログラム
- ・50050型車両の先頭部分を歌舞伎の隈取りにラッピングしてPR

(16年11月下旬より運行予定)



⇒ダイナミックな映像と臨場感溢れる音響で夜間の展望台の魅力をさらに向上

■『東京スカイツリー®VR』を開始(16年7月～)

- ・視界不良時にフロア350に設置した専用の簡易型ヘッドマウントディスプレイにより、全方向の迫力ある 3D空間映像を提供
- ・視界不良時限定のサービスとして開始したが、好評につき好天時にも一部コンテンツを常設(16年10月～)



■『いつかスカイツリーで朝食を at SKYTREE CAFE』(16年9～11月)

- ・月刊コミック@バンチの人気連載コミック「いつかティファニーで朝食を」とコラボレーションし、地上340mの絶景を眺めながら特別な朝食をお楽しみいただけるイベント

⇒ご好評につき、11月末日まで延長決定



Ⅱ.「東武グループ中期経営計画」の推進



基本戦略2 東京スカイツリータウン®の継続的な収益力強化

来場者の維持拡大

東京ソラマチ®における話題性の高いイベント実施や テナント誘致による集客力強化と積極的なインバウンド施策

■周年記念やシーズンに応じたイベントを開催

- ・4周年を契機とした集客イベントや、販売促進策の実施(5月)
(フラワーカーペット、大道芸フェスティバル等)
- ・「東京スカイツリータウン®七夕まつり2016 with DREAMS COME TRUE」の実施 (7月)
- ・「東京スカイツリータウン®イルミネーション2016」を開催予定(11~3月)
今冬も毎年好評のプロジェクションマッピングを上映予定(12月)
⇒今回初めて、東京スカイツリー®塔体の構造を生かした迫力ある投影を計画



「4周年記念事業」



「イルミネーション2016」
(プロジェクションマッピング)
※イメージ



「カービィカフェ」



「イルミネーション2015」
※昨年の様子

■話題性のあるテナント入替

- ・「カービィカフェ」等、話題性の高いテナントを誘致
⇒キャラクターカフェやグッズ販売が好調
⇒今後コンテンツを変え、更なる集客、販売促進施策を実施
- ・物販店舗メインの5年定期賃貸借契約期間満了に伴うリニューアル計画
⇒集客と収益、価値の最大化を図る(17年度実施予定)

■インバウンド施策の積極的な実施による収益確保

- ・「Have Nice Trip Campaign」《夏休み～国慶節まで期間拡大》
⇒訪日外国人旅行者対象の購買促進策としてパスポート提示で特典付与

Ⅱ.「東武グループ中期経営計画」の推進



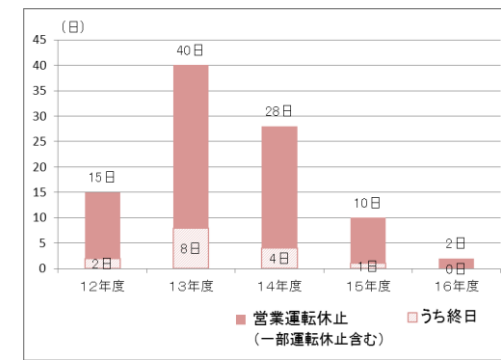
基本戦略2 東京スカイツリータウン®の継続的な収益力強化 来場者の維持拡大

天望シャトル(エレベーター)の改修工事による効果

■天望シャトル(エレベーター)の改修

- ・強風時の利用制限を改善する改修工事計画の完了
- ・1基目の運行再開後は全面的な営業休止・中止実績はなし
 - 1基目:15年 8月 3日 運行再開
 - 2基目:16年 3月11日 運行再開
 - 3基目:16年10月 6日 運行再開

強風時においてもお客様に安心してご来場いただける展望台に



強風等による天望シャトルの運転休止(実績)

新たな券種や料金設定の導入

■訪日外国人観光客向け『Fast Skytree Combo ticket』の設定

- ・天望デッキと天望回廊の入場セット券を新たに設定し、訪日外国人観光客の利便性を向上
- ・あわせてわかりやすい料金に変更し販売を開始(16年7月～)
 - ⇒Combo ticket 販売累計 31千枚(販売開始から9月までの3か月間)

■日時指定券に天望デッキと天望回廊の入場セット券の設定と「朝割」の導入、「特定日」の料金改定

- ・16年12月入場分から販売開始(予約受付開始:16年10月～)

16年度第2四半期 Fast Skytree ticket 販売実績(Combo券含む)

国名	実績(千人)
中国	13
アメリカ	13
台湾	7
香港	5
オーストラリア	4
その他	49
合計	91

Ⅱ.「東武グループ中期経営計画」の推進



基本戦略3 沿線の生活価値の向上

駅スペースを活用した施設・媒体の魅力向上

駅直結・駅スペースを活用した積極的な商業施設の展開と 大規模広告媒体の新設・増設

■「EQUiA(エキア)成増」グランドオープン

- ・16年3月開業
- ・オープン以降、駅利用者、近隣住民に好評
- ・グロスアリー・飲食店を中心に売上好調



■「イケチカ ダイニング」グランドオープン

- ・16年5月開業
- ・池袋駅西口地下に5店舗がオープン
- ・全店池袋エリア初出店の飲食店を展開



「EQUiA成増」



「イケチカダイニング」

■「北千住駅ナカ店舗(中央改札前)」リニューアル

- ・【第1期】17年3月(予定) 【第2期】17年7月(予定)
- ・店舗区画数を5店舗へ倍増 (飲食・物販・サービスほか)

■「志木st. トスカ(東口駅ビル)」リニューアル

- ・17年3月下旬(予定) 駅ビル1・2階をリニューアル
- ・物販や飲食店舗を軸としたMD構成への変更



「北千住駅ナカ店舗」(イメージ)



「志木st. トスカ」(イメージ)

■視認性の高い駅名標板を広告媒体活用

- ・東武練馬、高坂(大東文化大学)、霞ヶ関(東京国際大学)
川角(城西大学)設置

※以降、対象駅にて地元企業等が設置検討中



■大規模デジタル広告媒体 増設リニューアル

- ・池袋西口地下にデジタルサイネージ70面設置(16年度竣工予定)

※その他主要駅にて大型広告媒体など検討中

Ⅱ.「東武グループ中期経営計画」の推進



基本戦略3 沿線の生活価値の向上

沿線拠点の強化

東武百貨店池袋店 地下1階3番地リニューアル

～『HANA 3 TERRACE』(ハナサンテラス)16年7月1日オープン～

■「東武の顔となる季節の花々が咲き乱れる＝
Flower Garden」
“食の玄関口”として、四季折々の食の魅力を伝えます

原則2週間ごとに6店舗が入れ替わるイベントスペース(ハナサンテラス)と東京地区、池袋地区初出店の常設2店舗を設けて、お客様の幅広いニーズにお応えし、いつ来ても楽しく新鮮さを感じていただける空間を演出



ハナサンテラス



東武百貨店池袋店 常設店舗

【リニューアル概要】

- ・場 所 東武百貨店池袋店 地下1階3番地
- ・面 積 300㎡
- ・営業時間 10:00～21:00(日曜・祝日は20:00まで)
- ・ターゲット 20～40代女性
- ・売上目標 15年度比180%(同場所対比)
- ・常設店舗 「キッシュ ヨロイヅカ」(キッシュ専門店)
「クロッカンスシュー ザクザク」(シュークリーム)

Ⅱ.「東武グループ中期経営計画」の推進



基本戦略3 沿線の生活価値の向上

沿線拠点の強化

沿線自治体と連携し、サブカルチャーを活かした取り組みを推進

～埼玉県・春日部市・双葉社と連携したクレヨンしんちゃん25周年記念企画の実施～

■東武鉄道クレヨンしんちゃんラッピングトレインの運行

- ・期 間 16年11月3日(木・祝)～約半年間(予定)
- ・使用車両 50050型
(東京メトロ半蔵門線・東急田園都市線直通)
- ・運行区間 東武伊勢崎線 久喜および日光線 南栗橋
～東急田園都市線 中央林間 間



(C)臼井儀人/双葉社・シンエイ・テレビ朝日・ADK



クレヨンしんちゃんラッピングトレイン

■東京ソラマチ® クレヨンしんちゃんコラボカフェ 「ビストロ オラマチ」オープン・春日部連動企画

- ・期 間 16年11月3日(木・祝)～17年1月9日(月・祝)
- ・場 所 東京ソラマチ®4階
- ・連動企画 同期間春日部ララガーデンにて
ポップアップ・キッチンカー
「ビストロ オラマチ in カスカベ」が
オープン。両店舗を訪れた方への
特典を用意



ビストロ オラマチ キービジュアル



店内の様子



オリジナルメニュー

Ⅱ 「東武グループ中期経営計画」の推進



基本戦略4 観光戦略の展開

日光・鬼怒川地区の活力創出

日光・鬼怒川地区における新規事業の推進

■ 金谷ホテル(株)の株式取得



【取得日】

16年9月30日

【取得の目的】

- ・歴史や伝統を有する金谷ホテルを当社グループに迎え、グループ間に新たなシナジーを創出
- ・日光地区の活力創出に注力する中で、当社グループにとって日光地区の核となるホテルとして取得

■ ザ・リッツ・カールトン日光開業(20年夏予定)

世界遺産を含む日光国立公園内、中禅寺湖畔の豊かな自然にそびえるワールドクラスの国際的ラグジュアリーホテルが誕生

【プロジェクト概要】

- ・施設 レストラン、スパ、温泉等
- ・敷地面積 約19,000㎡ ・延床面積 約13,000㎡
- ・総客室数 94室(予定)



■ SL事業の推進(17年夏運転開始予定)

運転開始に向けた準備を推進

【最近の進捗】

- ・SLの各種検査を行う南栗橋検修庫を新設
- ・SLのほか客車、車掌車の受入

【今後の予定】

- ・ディーゼル機関車の受入(16年12月頃)
- ・鬼怒川線で試運転開始(17年4月頃)
- ・営業運転開始(17年夏)



Ⅱ.「東武グループ中期経営計画」の推進



基本戦略4 観光戦略の展開

インバウンド獲得への取組み強化

インバウンド獲得にむけた効果的な情報発信と受入体制の整備

■ SNSの活用、インフルエンサーの招聘

- ・中国(簡体字)向けにWeibo、WeChat公式アカウントを開設(5月～)
- ・英語、繁体字、タイ語の各言語にてfacebook公式アカウントを開設(6月～)
- ・中国在住パワーブロガー(7月)や台湾フェイスブッカー(10月)の招聘
- ・ミス・インターナショナルのスカイツリー/日光への招聘(10月)

■ 海外有力媒体への出稿、有力企業との連携

- ・「Japan Walker(台湾)」「Hong Kong Walker(香港)」への出稿(7月)
- ・「Time Out Tokyo」と連携した日光エリア観光マップの作成(11月)

■ 訪日外国人受入環境の整備促進

- ・東武外国人旅行センターのリニューアル(10月)
- ・東武百貨店(化粧品売場)でのインバウンド向け決済サービス(アリペイ)の新規導入(10月)
- ・東武鉄道全従業員への英語教育の実施
- ・日光エリアにおけるインバウンド関連整備(エリア内統一サイン等)



ミス・インターナショナル日光訪問の様子



東武ツーリストインフォメーションセンター浅草

Ⅱ.「東武グループ中期経営計画」の推進



基本戦略4 観光戦略の展開

インバウンド獲得への取組み強化

台湾を拠点とした海外セールス活動の強化

■東武鉄道初となる海外支社『台北支社』の開設

- ・台湾(台北)に当社社員の常駐する支社を開設(10月)
- ・現地メディアやエージェントとの関係強化、海外での情報発信や営業サポートを実施

■台湾鐵路管理局との連携施策

- ・台湾鐵路管理局「普悠瑪号」の塗装を施したりょうもう号の運行開始(6月)
- ・台湾鐵路管理局「台鉄自強号」に「日光詣スペースシア」デザインの塗装を施し台湾国内で運行開始(10月)



台北支社オフィス



普悠瑪号ラッピングのりょうもう号



日光詣スペースシアラッピングの台鉄自強号



台鉄自強号出発式

Ⅲ. 2016年度 通期見通し

1 期間損益(連結)

(単位:億円)

	16年度 (見込)	15年度 (実績)	増 減	16年度 (計画)	増 減
営業収益	5,733	5,743	▲10	5,855	▲122
営業利益	650	644	6	650	0
経常利益	576	560	16	566	10
親会社株主に帰属 する当期純利益	354	273	81	337	17
利益剰余金	1,802	1,527	275	1,787	15
営業利益 ROA ※	4.1%	4.0%	0.1P	4.1%	0P
ROE ※	8.8%	7.1%	1.7P	8.4%	0.4P

※営業利益ROA=連結営業利益÷{(期首総資産+期末総資産)÷2}

※ROE=親会社株主に帰属する当期純利益÷{(期首自己資本+期末自己資本)÷2}

※計画値は16年5月13日発表のものを使用している。(P27~P36)

Ⅲ. 2016年度 通期見通し

2 キャッシュフロー計画(連結)

(単位: 億円)

	16年度 (見込)	15年度 (実績)	増 減	16年度 (計画)	増 減
EBITDA	1,181	1,173	8	1,184	▲3
(営業利益)	(650)	(644)	(6)	(650)	(0)
(減価償却費)	(531)	(529)	(2)	(534)	(▲3)
有利子負債残高	7,990	8,235	▲245	8,040	▲50
有利子負債/ EBITDA倍率	6.8(倍)	7.0(倍)	▲0.2P	6.8(倍)	0.0P
純工事額	652	693	▲41	662	▲10

Ⅲ. 2016年度 通期見通し

3 セグメント別営業利益見込

(単位:億円)

	16年度	15年度	増 減	16年度	増 減
	(見込)	(実績)		(計画)	
運 輸	382 (4.2%)	376 (4.1%)	6 (0.1P)	379 (4.1%)	3 (0.1P)
レジャー	72 (3.7%)	82 (4.4%)	▲10 (▲0.7P)	77 (3.9%)	▲5 (▲0.2P)
不 動 産	140 (3.3%)	140 (3.4%)	0 (▲0.1P)	142 (3.4%)	▲2 (▲0.1P)
流 通	15 (1.5%)	4 (0.4%)	11 (1.1P)	14 (1.4%)	1 (0.1P)
そ の 他	42 (2.0%)	52 (2.5%)	▲10 (▲0.5P)	41 (1.9%)	1 (0.1P)

(各セグメント合計値と連結営業利益との差額:セグメント間取引等に関わる消去額)

(下段カッコ:営業利益ROA)

Ⅲ. 2016年度 通期見通し

《運輸事業》

(単位:億円)

	16年度	15年度	増減	16年度	増減
	(見込)	(実績)		(計画)	
営業収益	2,155	2,166	▲11	2,188	▲33
鉄道	1,621	1,615	6	1,630	▲9
その他	534	551	▲17	558	▲24
営業費用	1,773	1,790	▲17	1,809	▲36
鉄道	1,281	1,283	注1 ▲2	1,293	注2 ▲12
その他	492	507	▲15	516	▲24
営業利益	382	376	6	379	3
鉄道	340	332	8	337	3
その他	42	44	▲2	42	0

主な増減要因

		16年度	15年度	増減	%	16年度	増減	%
		見込	実績			計画		
旅客人員	定期外	316	315	1	0.2	317	▲1	▲0.2
	定期	590	588	2	0.3	598	▲8	▲1.4
	(特急等※1)	8	6	2	30.3	8	0	▲1.0
	計	906	904	2	0.3	915	▲9	▲1.0
旅客収入	定期外	798	790	8	1.0	796	2	0.3
	定期	657	658	▲1	▲0.0	667	▲10	▲1.5
	(特急等※2)	62	55	7	11.8	62	0	▲0.4
	計	1,456	1,448	8	0.5	1,463	▲7	▲0.5

※1 旅客人員の特急等は、定期外、定期人員の内数である。
また、16年度見込、16年度計画には、TJライナーの人員が含まれている。

※2 旅客収入の特急等は、定期外旅客収入の内数である。
また、16年度見込、16年度計画には、TJライナーの着席整理料金が含まれている。

注1 東武鉄道 鉄道業 人件費 ▲27
物件費 +29
動力費 ▲7
諸税 +6
減価償却費 ▲3

注2 東武鉄道 鉄道業 人件費 ▲1
物件費 ▲8
動力費 ▲2
減価償却費 ▲1

Ⅲ. 2016年度 通期見通し

《レジャー事業》

(単位:億円)

	16年度	15年度	増減	16年度	増減
	(見込)	(実績)		(計画)	
営業収益	778	790	▲12	800	▲22
ホテル	173	171	2	179	▲6
スカイツリー	148	151	▲3	150	▲2
その他	457	468	▲11	471	▲14
営業費用	706	708	▲2	723	▲17
ホテル	165	164	1	171	▲6
スカイツリー	94	92	2	94	0
その他	447	452	▲5	458	▲11
営業利益	72	82	▲10	77	▲5
ホテル	8	7	1	8	0
スカイツリー	54	59	▲5	56	▲2
その他	10	16	▲6	13	▲3

主な増減要因

※東京スカイツリー入場者数
 16年度見込 約469万人
 15年度実績 約479万人
 16年度計画 約474万人

Ⅲ. 2016年度 通期見通し

《不動産事業》

(単位:億円)

	16年度	15年度	増減	16年度	増減
	(見込)	(実績)		(計画)	
営業収益	589	545	44	595	▲6
賃貸	345	333	12	346	▲1
タウン	126	128	▲2	126	0
分譲	118	84	34	123	▲5
営業費用	449	405	44	453	▲4
賃貸	232	215	17	232	0
タウン	107	110	▲3	106	1
分譲	110	80	30	115	▲5
営業利益	140	140	0	142	▲2
賃貸	113	118	▲5	114	▲1
タウン	19	18	1	20	▲1
分譲	8	4	4	8	0

主な増減要因

分譲販売戸数		単位:戸				
		16年度 見込	15年度 実績	増減	16年度 計画	増減
販売戸数	戸建住宅	25	38	▲13	32	▲7
	マンション	304	166	138	331	▲27
持分換算後 販売戸数	戸建住宅	25	38	▲13	32	▲7
	マンション	248	134	114	256	▲8

※スカイツリータウン来場者数
 16年度見込 約3,300万人
 15年度実績 約3,360万人
 16年度計画 約3,300万人

Ⅲ. 2016年度 通期見通し

《流通事業》

(単位:億円)

	16年度	15年度	増減	16年度	増減	主な増減要因
	(見込)	(実績)		(計画)		
営業収益	1,960	1,994	▲34	2,011	▲51	注1 池袋店 ▲13 船橋店 ▲14 宇都宮店 ▲5 注2 池袋店 ▲25 船橋店 ▲14 宇都宮店 ▲9 大田原店 ▲1
百貨店	1,742	1,774	注1 ▲32	1,791	注2 ▲49	
その他	218	220	▲2	220	▲2	
営業費用	1,945	1,990	▲45	1,997	▲52	
百貨店	1,735	1,779	▲44	1,785	▲50	
その他	210	211	▲1	212	▲2	
営業利益	15	4	11	14	1	
百貨店	7	▲5	12	6	1	
その他	8	9	▲1	8	0	

Ⅲ. 2016年度 通期見通し

《その他事業》

(単位:億円)

	16年度	15年度	増 減	16年度	増 減	主な増減要因
	(見込)	(実績)		(計画)		
営業収益	914	910	4	894	20	
営業費用	872	858	14	853	19	
営業利益	42	52	▲10	41	1	

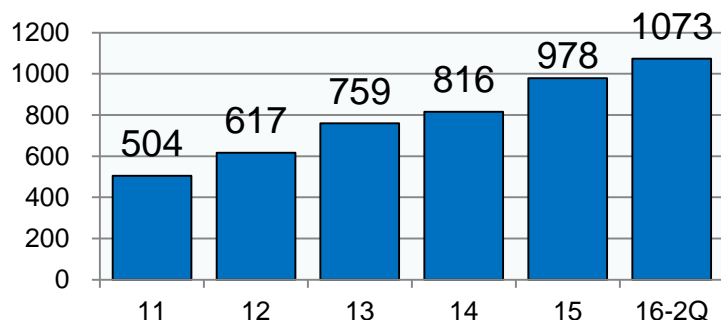
Ⅲ. 2016年度 通期見通し

4 鉄道単体

(単位:億円)

	15年度 第2四半期 (実績)	16年度第2四半期		増減		15年度 (実績)	16年度		増減	
		(実績)	(計画)	(対前年)	(対計画)		(見込)	(計画)	(対前年)	(対計画)
営業収益	1,133	1,088	1,087	▲45	1	2,226	2,261	2,279	35	▲18
営業費用	893	839	856	▲54	▲17	1,753	1,781	1,799	28	▲18
営業利益	240	249	231	9	18	473	480	480	7	0
経常利益	190	218	192	28	26	386	401	394	15	7
当期純利益	103	142	119	39	23	224	266	244	42	22

(億円) 利益剰余金の推移



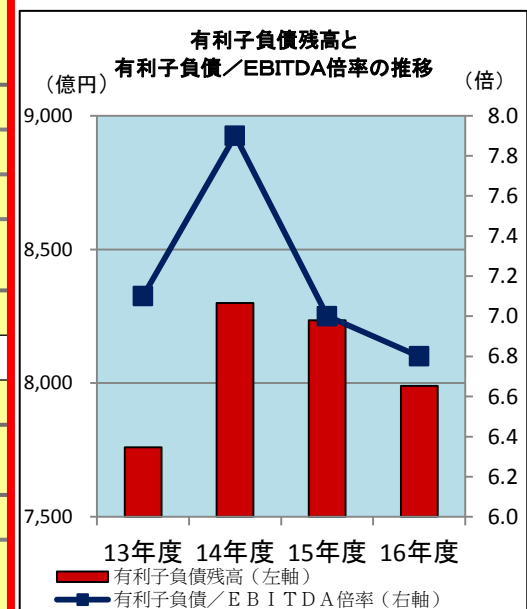
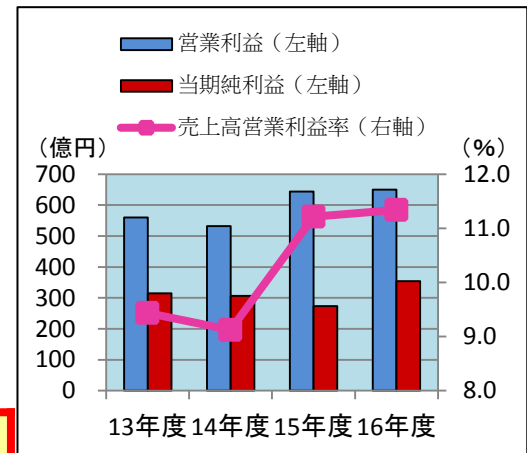
基準日	1株あたり配当金		
	第2四半期末	期末	合計
16年3月期	3円00銭	3円00銭	6円00銭
17年3月期 (予想)	3円00銭	3円00銭	6円00銭

(参考) 中期経営計画の進捗状況

16年度(最終年度)の連結目標数値



	15年度 実績	16年度 見込	16年度 中期経営 計画	差引
営業収益(億円)	5,743	5,733	6,070	▲337
営業利益(億円)	644	650	650	0
経常利益(億円)	560	576	535	41
親会社株主に帰属する 当期純利益(億円)	273	354	320	34
売上高営業利益率(%)	11.2	11.3	10.7	0.6
減価償却費(億円)	529	531	527	4
EBITDA(億円)	1,173	1,181	1,177	4
有利子負債(億円)	8,235	7,990	8,400	▲410
有利子負債/ EBITDA倍率(倍)	7.0	6.8	7.1	▲0.3



東武グループ中期経営計画2014～2016



基本戦略

1

鉄道事業の利便性・安全性の向上

- ◇東武アーバンパークラインの利便性・快適性の向上
- ◇質の高い輸送サービスの提供
- ◇安全性の向上

2

東京スカイツリータウンの継続的な収益力強化

- ◇東京スカイツリータウン来場者の維持拡大
- ◇地域との連携によるエリア全体の活性化
- ◇東武グループ各社による収益拡大

3

沿線的生活価値の向上

- ◇沿線拠点の強化
- ◇駅直結・駅スペースを活用した商業施設の魅力向上
- ◇定住化促進と生活支援事業の展開

4

観光戦略の展開

- ◇訪日外国人観光客向けサービスの拡充
- ◇日光・鬼怒川地区等沿線観光地の活力創出



当該資料に関する注意事項



華巖ノ滝・明智平より

この配布資料に記載されている利益等の計画値については、当社および当社グループ会社の事業に関連する業界の動向についての見通し等、国内および諸外国の経済状況その他業績に影響を与える要因について、現時点で入手可能な情報を基にした予想を前提としています。

従って、実際の業績は経営環境等の変化に伴い、この配布資料に記載されている見込値とは異なる場合がありますことをご承知おきください。

将来の成長に向けて ～4・3・2・1 Plan～

➤ <<持続的成長に向けた4つの重点投資エリア>>

成長性ある4つの重点エリアに当社グループ資源を集中し、収益最大化を図る

① 『浅草・東京スカイツリーエリア』

先進性と伝統・文化が融合した日本のシンボルタウンへ

～日本屈指の国際観光都市『浅草』と日本を代表する観光・商業施設『東京スカイツリータウン』～

【具体的施策】

- ・浅草駅～とうきょうスカイツリー駅間における高架下活用（賑わいと連続性の創出）
- ・自治体と連携した北十間川水辺空間の活用（護岸整備・舟運）

② 『日光・鬼怒川エリア』

歴史・文化・伝統と環境が共生する国際観光地へ

～ナショナルパークにふさわしい、環境に配慮し、四季の美しさを活かした通年型リゾート～

【具体的施策】

- ・四季折々の自然、豊かな温泉資源を活用した国際観光地にふさわしい通年滞在型ホテルの建設
- ・昭和レトロの世界観を特徴としたSL運転による非日常感ある旅の演出と、地域協働でのエリア活性化

③ 『池袋エリア』

日本屈指のターミナルを核とし、新たな沿線価値を創出へ

～特定都市再生緊急整備地域指定による国際競争力強化～

【具体的施策】

- ・池袋西口地区における商業・オフィス等の複合開発を推進
- ・池袋エリアと相乗効果をもたせた下板橋駅構内開発の推進

④ 『銀座・八重洲・湾岸エリア』

日本を代表するグローバル拠点である銀座・八重洲・湾岸エリアを事業拠点へ

～日本の中心・トレンド発信エリアにおけるさらなる事業拡大～

【具体的施策】

- ・銀座・八重洲・湾岸エリアに保有する当社グループ資産の開発

➤ <<3つの路線の特徴を活かした沿線開発の深耕による価値向上>>

当社の主要3路線の輸送・生活サービスのさらなる向上により、選ばれる路線に

① 『東武スカイツリーライン・伊勢崎線・日光線』

駅を中心とした拠点の開発による沿線価値向上を目指す

【具体的施策】

- ・竹ノ塚、春日部における高架完成後の再開発や東武動物公園駅前再開発の推進

② 『東武アーバンパークライン』

鉄道輸送の速達性向上による利便性向上を図るとともに、様々なライフステージに対応した新しい生活スタイルの提案を目指す

【具体的施策】

- ・清水公園等の土地分譲事業

③ 『東武東上線』

沿線南部における駅周辺の商業等開発促進と沿線北部における住宅開発の促進を図る

【具体的施策】

- ・ときわ台駅・上板橋駅での駅ビルリニューアル
- ・和光市・朝霞台での駅ビル建設推進

➤ << 2つのラインに沿った沿線外への事業進出>>

東京から北方と西方との2つの軸に沿って成長機会を求める事業展開へ

① 『北のライン』

今後インバウンド等において成長するポテンシャルを秘めた北関東～北海道エリアに現存するグループ資源のさらなる活用を図る。

② 『西のライン』

今後さらなる成長が見込める名古屋・京都・大阪・福岡等に事業展開を図り、東武グループの知名度を高め、全国的な事業拠点を整備する。

➤ << 1つの統一されたグループインバウンドへの取り組み>>

東武グループ全体で統一されたインバウンド戦略を

2020年には4,000万人に急伸するとみられている訪日外国人旅行者を中心としたインバウンド需要を沿線各地へと取り込み、国家的戦略たる観光立国の一翼を担う。